

令和4年度

事業説明資料

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	10	01	03	104080	特別支援事業費

単位: 千円

		前年度 決算額	当該年度 決算額	次年度 現計予算額	決算額 前年比
事業費		73,260	76,969		3,709
財源内訳	国費	0	0		0
	県費	0	0		0
	地方債	0	0		0
	その他	0	0		0
	一般財源	73,260	76,969		3,709

特定財源の内訳					

事業期間	○	単年度繰返		期間限定	～
------	---	-------	--	------	---

部重点施策における目標

特別支援体制の充実

事業開始の背景・経緯

学校では対応しきれない不登校や問題を抱える児童生徒及び発達障がいのある児童生徒への対応を支援し、全ての児童生徒が生き生きとした学校生活を送れるよう、この事業を開始した。

事業概要

- ふれあい共育の推進 38,893千円
特別な支援が必要な児童生徒に対し支援を行うふれあい共育推進員を配置
- 特別支援体制の整備 1,665千円
障がいのある児童生徒への教育支援体制の整備
- 学校適応支援 24,616千円
問題を抱える児童生徒及び保護者の教育相談や、特別な支援が必要な児童生徒に関する巡回指導等のため、教育相談員、スクールソーシャルワーカー及び生徒支援員を配置
- ことばの教室巡回指導 10,488千円
「ことばの教室」での指導を必要とする児童に対する巡回指導のため、ことばの教室巡回指導員を配置
- 日本語指導講師 1,307千円
帰国子女等の日本語が不慣れな児童生徒を支援する日本語指導講師を配置

担当部署	51190000 教育委員会 学校教育	担当課長	及川 仁
------	---------------------	------	------

意見・要望等の状況

特別な支援が必要な児童生徒の増加及び不登校傾向にある児童生徒の抱える悩みの複雑化などから、この事業の継続・発展要望が学校等から多く出されている。

事業手法の詳細 1

事業費合計 76,969千円

特別な支援を必要とする児童生徒が生き生きと学校生活を送ることができるよう、生活・学習支援を行うとともに、不登校・不登校傾向にある児童生徒への登校支援を行う。

1. ふれあい共育の推進 38,893千円
 - (1) ふれあい共育推進員
発達障がいなどにより、特別な支援を必要とする児童生徒を支援するために配置
会計年度任用職員51人
 - (2) ふれあい共育推進員(医療的ケア)
通常学級に在籍する医療的ケアを必要とする児童を支援するために配置
会計年度任用職員3人
2. 特別支援体制の整備 1,665千円
障がいのある児童生徒への教育支援体制の整備
教育支援委員会、教育相談室、風の子ひろば運営費
3. 学校適応支援 24,616千円
問題を抱える児童生徒及び保護者の教育相談や、特別な支援が必要な児童生徒に関する巡回指導等のため、教育相談員5人、スクールソーシャルワーカー3人、生徒支援員6人を配置
会計年度任用職員14人
4. ことばの教室巡回指導 10,488千円
「ことばの教室」での指導を必要とする児童に対する巡回指導のため、ことばの教室巡回指導員を配置
会計年度任用職員4人、巡回指導経費
5. 日本語指導講師 1,307千円
帰国子女等の日本語が不慣れな児童生徒を支援する日本語指導講師を配置
会計年度任用職員2人